

7旧藤屋旅館



木造二階建て(切妻・トタン平葺)で、間口七間、奥行四間の母屋は現存していないが、一階は土間、帳場、料理場、納戸、居室、二階には10畳2部屋、6畳2部屋があった。大正6年(1917)に増築された離れ座敷とその玄関、庭の一部が残されている。

8旧西村旅館

木造二階建て(入母屋・棧瓦風新建材葺)。一階は間口五間半、奥行四間半。北側と西側にそれぞれガラス戸4枚(各二間)の店構えである。



9芝山公園と芝山はにわ祭



15万㎡の広さがある緑に囲まれた公園で、ミニアスレチック、野球場、休憩施設、埴輪のモニュメントなどがある。はにわ祭は、成田空港建設をめぐって芝山町内が対立していた頃、再び町民が心をつづめるためはじめられた祭。古代衣装を着た古代人が、殿塚・姫塚、観音教寺、芝山公園で儀式や行列を行う。毎年11月の第2日曜日に開催されている。

10復元古墳

芝山公園の入り口付近にあり、殿塚古墳を1/3にした復元古墳で、姫塚古墳出土埴輪のレプリカも並ぶ。



11旧藪家住宅【千葉県指定有形文化財】



山武市板川に建てられていた江戸時代中期(17世紀末から18世紀初め)の住宅で、平成元年に芝山公園に移築された。藪家は、江戸時代に代々名主を勤めていた。建物は、間口10間、奥行4間半の茅葺寄棟造である。5室で構成される間取りは、土間から入って17畳半の「チャノマ」、10畳の「ザシキ」、奥は床の間を設けた「オクノマ」、裏手は、「ナンド」「ダイドコロ」となっている。

12熊野神社



伊弉諾尊、速玉男命、事解命命を祭神とする。明治12年(1879)の『神社明細帳』によれば、境内坪数は92坪、氏子戸数は59戸であった。

13(公財)花と緑の農芸財団

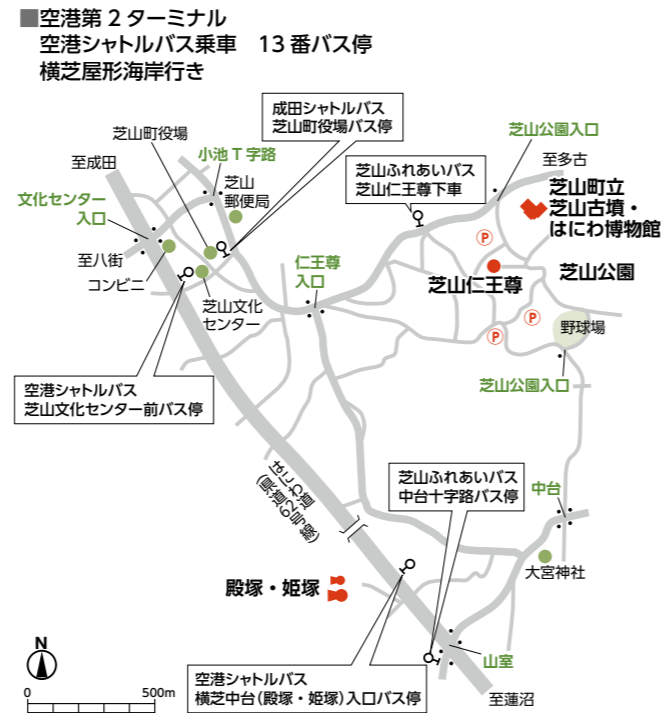
花の苗の寄贈や農業体験などの啓蒙活動・普及活動などを行っている。芝山公園に隣接する本部の建物「和い処」は、山武市成東に建てられていた旧結城藩主の休息処であった築160年余の屋敷を移築した。



芝山地区とは

芝山仁王尊・観音教寺は、江戸時代に火事・泥棒除けの仁王様として庶民の信仰を集め、門前には旅籠や商店も並んでいた。その門前の地区は、江戸時代は武射郡芝山村で旗本領、明治元年に観音教寺に柴山藩の仮藩庁が置かれ、昭和30年に誕生した芝山町の町名の由来となった。成田国際空港開港後は、騒音移転の対象となり、保存された3軒の旅籠がその面影を伝えている。現在は、公園や博物館などによる観光拠点の一角となっている。

周辺案内図



殿塚・姫塚【国指定史跡】

横芝光町中台に所在し、17基で構成される芝山古墳群(中台古墳群)の中心的な古墳。昭和31年に観音教寺が主導して、早稲田大学考古学研究室が発掘調査を行った。造形美あふれる人物埴輪や動物埴輪が列をなして出土した。殿塚は全長88m、高さ7.8mで、姫塚は、全長58.5m、高さ4.8m、ともに6世紀の前方後円墳。



芝山地区への交通案内

電車・バス

- 芝山鉄道「芝山千代田駅」から芝山ふれあいバスにて24分「芝山仁王尊」バス停下車
 - JR総武本線「松尾駅」から芝山ふれあいバスにて20分「芝山仁王尊」バス停下車
- *芝山ふれあいバスは、日曜日、年末年始は運休となります。

自動車

- 東関東自動車「成田IC」から約30分
- 圏中道「松尾横芝IC」より約10分

発行 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
〒289-1619 千葉県山武郡芝山町芝山438-1 ☎0479-77-1828
令和2年3月

芝山町芝山地区

いにしえは古に思いを馳せて巡ろう

門前町芝山散策マップ



周辺施設ガイド

1 芝山仁王尊・観音教寺



正式には天応山観音教寺福聚院と号する。奈良時代の天応元年(781)に藤原継縄により創建された天台宗の古刹。本堂は、享保6年(1721)の建立で、本尊の十一面観世音菩薩を安置している。中世には千葉氏の祈願寺、近世には火事・泥棒除けの祈願寺として庶民の信仰を集めた。

2 観音教寺三重塔【千葉県指定有形文化財】

方三間、総檜造、銅板平葺きの層塔で、高さは25メートル。柱はすべて円柱、正面1間は両開きの棧唐戸(框を縦横に組んで、間に板をつける)となっている。建築年代は、擬宝珠の文政9年(1826)の銘から、この頃に建てられたと考えられる。



3 観音教寺仁王門



明治2年(1869)に起工し、明治15年に完成した総檜造り、お堂形式の門。仁王尊像は、畳の敷かれた堂内陣須弥壇の上に安置されている。堂内には江戸(東京)の火消し衆による千社札や奉納額などが多くみられる。

4 仁王尊像【芝山町指定有形文化財】

嘉慶2年(1388)の造立で、阿形と吽形の2軀からなる。像高は、阿形は177センチ、吽形は183センチで檜の寄木造りである。江戸時代に仁王信仰が広まり、火事泥棒除けの仁王様として江戸火消し衆の信仰を集めた。



5 芝山仁王尊門前と旅籠



芝山仁王尊には、境内東側と仁王門前の参道に旅籠や商店が並んでいた。明治26年(1893)の絵図には東参道に7軒、仁王門前に2軒の旅籠が描かれている。また、菓子屋・力せんべい・飴屋・醤油屋・味噌屋・米屋・酒屋などの商店も並んでいた。

6 旧笹喜旅館

木造二階建て(寄棟・棧瓦葺)。一階は間口七間、奥行四間。ガラス戸九枚の店構えで、内部は土間の奥に板敷き大広間と料理場がある。二階の間取りは、襖仕切りの6畳・8畳・6畳の3部屋である。一階の離れは現存していない。



14 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館



「房総の古墳と埴輪」をテーマに展示。芝山仁王尊観音教寺から寄託を受けた芝山古墳群(殿塚・姫塚)出土埴輪をはじめ、芝山町周辺や県内から出土した埴輪を見比べることで、その種類や特徴を知ることができる。

○ 芝山古墳群(殿塚・姫塚)出土埴輪【千葉県指定有形文化財】

昭和31年(1956)、殿塚・姫塚(芝山古墳群)の発掘調査により、多量の人物や動物などの形象埴輪が列をなして出土した。特に姫塚古墳で出土した埴輪は、葬列の埴輪として注目された。姫塚出土の人物埴輪や馬形埴輪の計9点が千葉県指定有形文化財となっている。



○ 庄作遺跡の墨書土器資料群【千葉県指定有形文化財】

庄作遺跡は、芝山町小原子の台地上にあり、6世紀後半から10世紀までの集落遺跡。発掘調査では、墨で人の顔を描いた人面墨書土器や名前や文字を書いた奈良・平安時代の墨書土器が123点も出土した。

○ 鮭の埴輪【芝山町指定有形文化財】

昭和39年(1964)に大里地区白樹で出土。高さ29.3センチ、長さ25.7センチ。魚形の埴輪で、鮭をかたどったものと考えられる。



○ 双口土器【芝山町指定有形文化財】

U字形で口が二つあるユニークな形の縄文土器で、小池台遺跡の発掘調査で発見された。高さ約8センチ、左右の口の大きさはともに約5センチで、約4千~3千年前の縄文時代後期の土器。



○ 芝山象嵌の扁額【芝山町指定有形文化財】

芝山象嵌(芝山細工)は、貝や象牙を花鳥人物などに象り、器物の表面に嵌め込み、模様を立体的に仕上げる技法。江戸時代後期に上総国芝山村(現芝山町)出身の芝山専蔵が考案した。明治時代には、印籠、根付、花瓶、屏風などの作品が横浜で作られ、輸出用の工芸品として人気を博し横浜芝山漆器と呼ばれた。扁額は、観音教寺門前の旧藤屋旅館に伝えられ、作者は鈴木甫造、文化2年(1805)の作。漆仕上げの額の中に、木の下で遊ぶ子どもたちの様子が表現されている。



○ 芝山隕石

昭和44年(1969)、芝山町菱田の面足神社近くの畑で発見された。重さは235グラム、大きさは78ミリ×68ミリ×32ミリ。千葉県で発見された唯一の隕石で、茨城県自然博物館に常設展示され、町立博物館でレプリカを展示。

至 芝山町役場・成田方面

至 芝山町役場・成田方面

至 多古・匝瑳方面

至 芝山はにわ道・殿塚・姫塚(芝山古墳群)方面



- 芝山公園
- あずまや
- 案内板
- 駐車場
- トイレ
- 遊歩道

